

1 作物

項 目	作 業 内 容
<p>(1) 麦の栽培管理</p>	<p>(今月の作業管理のポイント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○麦の栽培管理 ○水稻の育苗準備 <p>1か月予報（1月19日高松地方気象台発表）では、気温は低く、降水量及び日照時間は平年並の見込みである。</p> <p>ア 土入れ、麦踏み</p> <p>この時期の土入れと麦踏みは、無効分けつの抑制や倒伏防止などの効果がある。11月上旬～中旬には種したほ場では2月中旬頃に茎立ち期となるので、それまでに土入れや麦踏みを完了する。</p> <p>土入れは跳上げロータ付き管理機等を用いて土を跳ね上げる（写真1）。土入れは、排水溝の補修効果による湿害防止対策にもなる。</p> <p>麦踏みは鎮圧ローラ等で行う（写真2）。ただし、土壌が湿った状態で踏むと、土が固くしまり過ぎ、根の生育が不良となるため、土壌の乾燥を待ってから行う。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="496 1205 932 1491">  </div> <div data-bbox="959 1182 1369 1491">  </div> </div> <p style="display: flex; justify-content: space-around;"> 写真1 土入れ 写真2 麦踏み </p> <p>イ 雑草防除</p> <p>気温が上昇すると雑草が繁茂し始めるので、雑草の葉齢が若いうちに、占有草種に効果のある除草剤を散布する。</p> <p>複数の草種が発生しているほ場では、一年生広葉雑草とイネ科雑草に効果があるハーモニー剤が比較的有効である。ハーモニー75DF 水和剤は、スズメノテッポウが5葉期まで、カズノコグサだと3葉期までが散布適期で、時期を失しないように散布する。</p> <p>広葉雑草が発生した際は、広葉雑草が2～4葉期で麦類の収穫45日前までにエコパートフロアブルを散布する。</p>

項 目	作 業 内 容																																	
<p>(2) 水稻の育苗準備</p>	<p>ウ 穂肥、追肥</p> <p>出穂期予測システムによると、ハルヒメボシ、チクゴイズミともに、11月播きの出穂期は3月22日である(下表)。この場合、穂肥の施用時期は、出穂前30日の2月20日頃となる。11月中旬以降のは種では、穂肥は3月に入ってから施用する。出穂前30日の幼穂長は5mm程度であり、幼穂長を目安に判断することができる。出穂時期は今後の気温が低く推移すると、出穂時期が予測よりも遅くなることもあるため、今後の気象動向や幼穂長を参考に穂肥施用時期を決定する。</p> <p>穂肥量は、NK化成で10a当たりチッ素成分3kgを基準とするが、中間追肥量や生育状況及び葉色により加減する。</p> <p>なお、12月は種のは場では、中間追肥として2月中旬までにチッ素成分で10a当たり2kgを追肥する。土入れ作業と併用すると効果的である。</p>																																	
	<p>表 麦の穂肥時期予測(1月22日予測、松山)</p> <table border="1" data-bbox="478 1030 1385 1415"> <thead> <tr> <th rowspan="2">播種期</th> <th colspan="2">ハルヒメボシ</th> <th colspan="2">チクゴイズミ</th> </tr> <tr> <th>出穂期</th> <th>穂肥時期(-30日)</th> <th>出穂期</th> <th>穂肥時期(-30日)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>11/1</td> <td>3/22</td> <td>2/20</td> <td>3/22</td> <td>2/20</td> </tr> <tr> <td>11/10</td> <td>3/26</td> <td>2/24</td> <td>4/1</td> <td>3/2</td> </tr> <tr> <td>11/20</td> <td>3/31</td> <td>3/1</td> <td>4/6</td> <td>3/7</td> </tr> <tr> <td>12/1</td> <td>4/5</td> <td>3/6</td> <td>4/11</td> <td>3/12</td> </tr> <tr> <td>12/10</td> <td>4/9</td> <td>3/10</td> <td>4/15</td> <td>3/16</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) ハルヒメボシの出穂予測日は出穂予測プログラム(農林水産研究所)により算出。チクゴイズミの出穂予測日は、麦の発育ステージ予測(西日本農業研究センター)を参照。今後、平年の気温で推移した場合の予測であるため、今後の気象動向に注意する。</p> <p>ア 用土</p> <p>水稻の育苗では、育苗用土のpH調整が重要となる。育苗時のトラブルは用土に起因することが多いため、次の点に注意しながら準備する。</p> <p>用土は無病で、通気性や肥料持ちが良くpHの低い壤土や砂壤土が望ましいことから、山土や粒状培土を用いる。</p> <p>用土量の目安は、10a当たりの苗箱数を18枚とすると、山土は床土と覆土で70~90ℓ、粒状培土は40~45kg程度となる。好適pHは4.5~5.5で、pHが高いと苗立枯病の多発要因となるため、硫黄華等で矯正する。100kgの土のpHを1下げる硫黄華の量は壤土で80g、砂壤土で60gであり、pHの矯正には約1か</p>	播種期	ハルヒメボシ		チクゴイズミ		出穂期	穂肥時期(-30日)	出穂期	穂肥時期(-30日)	11/1	3/22	2/20	3/22	2/20	11/10	3/26	2/24	4/1	3/2	11/20	3/31	3/1	4/6	3/7	12/1	4/5	3/6	4/11	3/12	12/10	4/9	3/10	4/15
播種期	ハルヒメボシ		チクゴイズミ																															
	出穂期	穂肥時期(-30日)	出穂期	穂肥時期(-30日)																														
11/1	3/22	2/20	3/22	2/20																														
11/10	3/26	2/24	4/1	3/2																														
11/20	3/31	3/1	4/6	3/7																														
12/1	4/5	3/6	4/11	3/12																														
12/10	4/9	3/10	4/15	3/16																														

項 目	作 業 内 容
	<p>月を要するため早めに調整しておく。なお、pHが低すぎるようであれば、もみ殻くん炭等で矯正する。</p> <p>イ 種子更新</p> <p>自家採種した種子を数年使用すると、混種や交配及び変異により品種本来の特性が発揮できなくなり、品質や収量の低下を招くため、3年に1度は必ず種子を更新する。</p>

(作成 農林水産研究所)